

平成25年度継続教育実施委員会活動の報告

日本大学 正会員 岩井 茂雄（土木学会継続教育実施委員会 委員長）
 大成建設（株）フェロー会員 尾高 義夫（土木学会継続教育実施委員会 幹事長）

1. はじめに

土木学会の継続教育（CPD：Continuing Professional Development）は、平成13年度の創設以来、技術推進機構が運用・普及に当たっている。平成25年度は、①CPDガイドブックの改善検討、②CPDシステムソフトの改善、③地方における技術者倫理講習会の開催検討、④eラーニングを使用した倫理教育の試行版の作成、⑤全国大会研究討論会の開催、⑥建設系CPD協議会への参画に関する活動を行った。これらの活動内容について報告する。

2. 活動状況

①CPDガイドブックの改善検討

これまでは、eラーニングを使用した学習によるCPD単位を、自己学習として0.5×学習時間としてきた。eラーニングが普及してきた状況を踏まえ、技術推進機構認定の講習会と同様に、技術推進機構が認定したeラーニングによる学習も「教育形態Ⅰ（講習会・研修会への参加）」として1.0×学習時間として登録できるように、CPDガイドブックを改正することとした。また、技術推進機構が作成した科学技術振興機構のeラーニングを土木学会認定eラーニングとした。

②CPDシステムソフトの改善

CPDシステムの2013年度の利用状況を表1に示す。例年と同様、資格保有者およびCPD会員のアクセス数が高いが、資格未保有者のアクセス数は低調である。

表1 CPDシステムの利用状況（2013.3.10）

アクセス数	学会員		CPD会員	合計
	資格保有者	資格未保有者		
0	421 24.7%	34,740 90.0%	369 17.9%	35,530 83.9%
1以上25未満	690 40.4%	3,139 8.2%	1,221 59.3%	5,050 11.9%
25以上	595 34.9%	702 1.8%	469 22.8%	1,766 4.2%
合計	1,706	38,581	2,059	42,346

システムの利用率と利便性の向上のため、現在のシステム上の課題（教育形態ごとの単位の合計の表示、証明書の申請段階で上限単位に達しているかどうかの確認等）をまとめ、平成25年度にシステムのソフト面の改善を行った。

③技術者倫理講習会の開催

技術者倫理講習会は、土木学会の本部の講堂でこれまで計8回開催してきた。講習会の全国展開を行うために、今年度は地方支部での開催の可能性について検討した。中部支部の講習会WGと連携をして、2014年度の秋頃を目途に、中部支部主催で「技術の継承と倫理講習会（仮称）」として、名古屋地区での開催を準備している。「技術の継承」のテーマは、2013年度の全国大会で、本委員会が主催した討論会と同様なスタイルで実施する予定である。

④eラーニングを使用した倫理教育の試行版の作成

講習会の開催場所が東京等の大都市に集中しており、地方の会員の方々が講習会等を受講できるような学習形態のプラットフォーム構築のニーズが高まっている。今年度は当委員会が編纂した「土木技術者倫理問題－考え方と事例解説Ⅱ－」を利用したeラーニングの教材の試行版の作成を行った。試行版は、「自律性」、「誠実性・公平性」、「継続教育・人材育成」、「説明責任・情報開示」、「法令遵守・率先垂範」の各項目から一つずつ事例を抽出してeラーニングに向けた教材の構成・内容の整理を行った。

キーワード 継続教育, CPD, CPDガイドブック, CPD単位, 技術者倫理, eラーニング

連絡先 〒450-6047 名古屋市中村区名駅1-1-4 大成建設株式会社名古屋支店土木部 TEL052-562-7525

試行版のイメージを図2に示す。

試行版は2014年の秋頃を目標に、技術推進機構のウェブサイトに掲載する予定である。試行版を会員に体験してもらい、アンケートを実施して今後のeラーニング教材の方向性について検討する。



図1 eラーニング試行版のイメージ

⑤全国大会研究討論会の開催

平成25年度全国大会の研究討論会で、「今求められる技術者教育とは？」を、継続教育実施委員会主催で9月4日（水）16:15から開催した。話題提供者としては、国土交通省関東地方整備局千葉国道事務所長の西村政洋氏、(株)建設技術研究所東京支社地球環境センター長の松田光弘氏、大成建設(株)土木本部土木技術部長の今酒誠氏、(独)労働安全衛生総合研究所主任研究員の伊藤和也氏に参加して頂き、継続教育実施委員会委員の竹村次朗氏（東京工業大学）が座長として討論会を進めた。参加人数は合計40名程度であった。

当日行ったアンケート結果（図2参照）によると、参加者は30代と40代で64%を占め、所属組織は総合・専門建設業が46%，設計コンサルタントが18%で、業務内容は企画、設計、施工管理、研究開発と様々な分野にわたっていた。

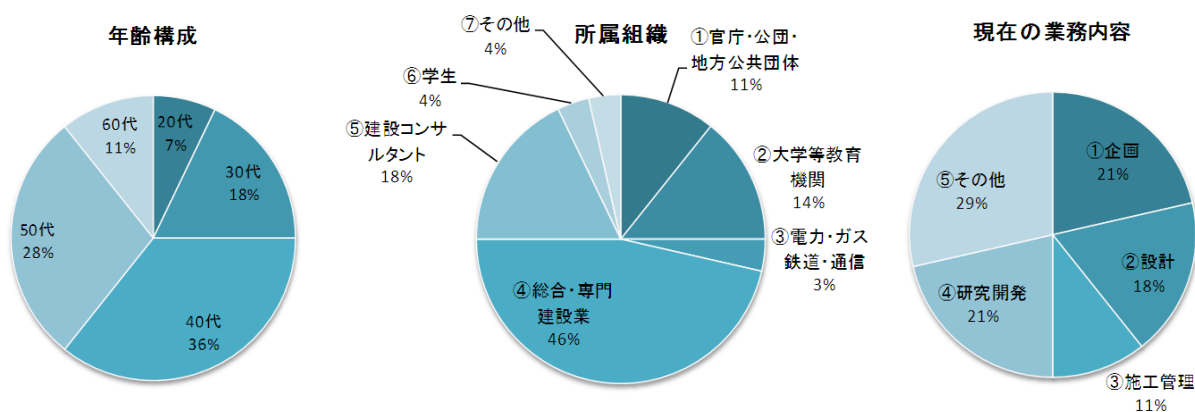


図2 討論会参加者の年齢構成・所属組織・現在の業務内容

話題提供者から、所属組織の中で行われている技術の伝承や若手技術者の教育の現況についての報告¹⁾があり、これらの話題について、座長のリードで会場の参加者を含めて討議を行った。同じ時間帯で多くの討論会が同時開催されたため、参加者が若干少なかったが、技術の伝承や若手技術者の教育についての問題意識の共有化が図られ、内容の充実した討論会であったと考えられる。

継続教育実施委員会としても、今後も“技術の伝承と若手技術者の教育”について、継続教育の観点から引き続き委員会活動のテーマの一つとして取り上げていきたい。

参考文献

- 1) 技術推進機構 継続教育実施委員会：今求められる技術者教育とは？，土木学会第68回年次学術講演会，研究討論会 研—08 資料，平成25年9月4日。